

## 生産と人間部会研究会

主テーマ：技能・技術伝承法の極意

～見える化を活用した指導者養成と生産現場の指導技法～

令和5年12月15日（金）13:05-15:30

### 1. はじめに

生産原論専門委員会では、生産技術史部会、先端生産技術部会、生産哲学・倫理部会、生産と人間部会が年1回ずつ研究会を企画し開催している。第4回研究会は、生産と人間部会が企画し開催を担当した。今回は職業訓練に携わって来られた第一人者を招きし、生産現場における指導技法の現場力強化と、技能の高度化および伝承を目指した後輩育成技法に関してご紹介頂いた。

### 2. 研究会の概要

12月15日（金）13時10分から15時30分まで第2回研究会と同様にオンライン形式で開催し、計9名の参加があった。今回は「技能・技術伝承法の極意」を主テーマとして、後輩育成及び技能伝承について深く議論を交わした。前半は指導者育成について職業能力開発総合大学の村上智広先生にご講演頂き、後半は指導技法の向上について元職業能力開発大学校の上坂淳一先生にご講演頂いた。講演後には両先生と参加者でディープディスカッションを行った。以下、概要についてまとめる。

### 3. 講演内容の概要

**講演1 「3つの見える化によるOJT指導者養成の展開（職業能力・作業急所・指導活動）」**

職業能力開発総合大学校教授 村上 智広氏

はじめに、職業能力開発総合大学校の紹介があり、職業訓練指導員を養成することを目的としていること、職業訓練指導員免許を卒業後すぐに取得できること、国の職業訓練施設としてポリテクセンタが63施設、ポリテクカレッジが25施設存在し、卒業生は訓練施設の先生として技能・技術の指導を行うことが紹介された。次に、多くの職場で人材育成や技能伝承の重要性が認識され、その展開法として On the Job Training（以降、OJT と称す）が多用されている事が紹介された。その一方で、ベテランの経験に頼るOJT だけでは効果が不安との声が存在し、講演では意図的、計画的なOJT を展開する上で重要となる3つの見える化と、その具体的手法について紹介された。

3つの見える化とは、「職業能力の見える化」「作業急所の見える化」「指導活動の見える化」である。クドバス法（CUDBAS:職業能力の構造に基づくカリキュラム開発手法の略称）を利用して職務のことを理解し、作業の問題点と重要な点を確認し、要点を伝えていく方法が紹介され、技能を伝承し指導者を育成する方法が実例を用いて報告された。

**講演2 「生産現場における指導技法の向上を目指して～基本の機械加工を例に～」**

元関東職業能力開発大学校教授 上坂 淳一氏

はじめに、関東職業能力開発大学校について、専門課程（一般大学の1・2年相当）と応用課程（一般大学の3・4年相当）の教育と社会人のための能力開発など大学校としての機能や地域の人材育成の役割を果たしていることが紹介された。次に、学生の教育訓練の中でも一般大学では習得しにくい技能教育（手仕上げや旋盤などを利用した機械加工での実践教育）の中から得られた効果や、生産現場における指導技法が報告された。一つの指導方法として指導の3段階（「導入」「展開」「まとめ」と4活動（「動機づけ」「提示」「適用」「評価」）が紹介された。この方法は、技能伝承に有効であることが報告された。

### 4. おわりに

お忙しい中、ご講演を頂いた講師の皆様にご心より御礼申し上げます。また、活発な議論をして頂き、充実した研究会となりました。参加者の皆様にも厚く御礼申し上げます。今回、とくに技術の伝承を上手に行うための急所が存在すること、作業者の気づきがあればものづくりの本質は伝わるという点がとても印象的でした。次回は総会・特別講演会を**令和6年2月5日（月）**に開催する予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

生産と人間部会主査 伊藤伸英 理事  
小島 篤 理事  
永野善己（文責）